

日本語教育に関わる皆さまと ～子ども向け日本語ボランティア～



令和7年9月26日、日本語ボランティアとして活動している皆さまと日本語教育の目指すべき方向性について話し合いました。現状や課題、今後必要となる取組などについてご意見をいただきました。

日本語教室と学校の連携

【参加者からのご意見①】

日本語教室で教えたことが実際の学校生活で役立っているのか分からない。
日本語教室と学校が連携できるような仕組みを作ってほしい。

【これからの対応について】

日本語教室と学校が連携を図ることは外国人児童生徒の生活に必要な日本語能力の習得や学校生活を円滑にするものと考えています。
今後、日本語ボランティアの皆さまの意見も継続して伺いながら、学校での生活を確認できるような工夫も検討していきます。

【参加者からのご意見②】

日本語教室で子どもたちに教えている日本語が、学校の授業についていくために役立つものになっているかどうか不安である。

【これからの対応について】

今年度策定中の「尼崎市多文化共生教育ガイドライン」には、日本語指導・教科指導についてのモデルケースなどを盛り込み、市HPで公表する予定です。そのため、日本語教室での指導内容を検討される際には是非、同ガイドラインのモデルケースなどを参考にしてください。

【参加者からのご意見③】

妊婦や小さい子どもを抱えている親が日本語教室に通えるような工夫をしてほしい。

【現在の対応などについて】

立花子ども日本語教室では、学校法人と連携し、教師等を目指す学生に保育をしてもらうことで育児中の方でも参加しやすい環境を作っています。こうした好事例を各教室に共有するなどして、受講しやすい環境づくりに努めます。



外国人生徒の受験期のサポート

【参加者からのご意見④】

高校受験を迎える外国人生徒やその親に対し、受験のシステムについて説明されているか不安である。市の取組で入試等へのサポートがあれば…。

【現在の対応について】

「尼崎市多文化共生教育ガイドライン」において、キャリア教育の推進を4つの視点のうちの1つに挙げており、また、外国人生徒に配慮した進路制度等も掲載する予定です。

また、進路説明会や懇談会等において進路相談・指導をする際は、通訳者の派遣やICTを活用し、きめ細かく本人の希望を聞き取るとともに、正確かつ有益な情報が提供できるよう配慮しています。

【これからの対応について】

教職員に対する研修の中で、外国人生徒に受験期のサポートの必要性を伝えていきます。



尼崎市多文化共生教育ガイドラインについて

【参加者からのご意見⑤】

ガイドラインの策定にあたっては、子どもたちの実際の生活を見ている日本語ボランティアの知見を反映できるようにしてほしい。

【現在の対応などについて】

日本語ボランティア団体など多文化共生教育に携わっている関係者からヒアリングを行うとともに、外部の有識者にも策定検討会議に参加してもらう中で、ガイドラインを策定しているところです。

現場の知見も反映して策定するガイドラインをもとに、子どもたちの生活に寄り添った教育を推進していきます。

放課後日本語ボランティア派遣事業の柔軟な対応を

【参加者からのご意見⑥】

放課後日本語ボランティアの派遣（※）回数が限られている。子どもが授業についていけるようになった頃に派遣が終了するケースもあるため、子どもによって派遣回数を増減するなど柔軟に対応することはできないか。

（※ 放課後の学校教室において、日本語の能力が不十分である外国籍児童・生徒に対して、日本での生活に必要な日本語指導を行う）

【これからの対応について】

放課後日本語ボランティア派遣事業は、令和6年度から3年間、試行実施を行っています。今後、事業の有効性や効果を検証する中で、引き続き外国人児童生徒への支援に向けた取組の検討を進めていきます。

外国人児童生徒が安心して過ごせる居場所

【参加者からのご意見⑦】

外国人児童生徒が放課後も安心して過ごせる居場所づくりが必要ではないか。

【これからの対応について】

ユース交流センターや各生涯学習プラザを中心に青少年の居場所を提供しているところです。今後、各学校や地域の日本語教室等を通じて、外国人児童生徒にも知ってもらえるよう取り組んでいきます。

みんなの

**尼活
皆議**



（※）参加者の皆さまのご意見や取組中（または取組予定）の事業等は、代表して一部のみを掲載しています。この他にいただいたご意見等は、尼崎市公式ホームページに掲載の車座集会の対話録をご覧ください。